

現代人の
必需品？

モバイルバッテリー、どれを選びますか？

今やスマートフォンやタブレットは日常生活には欠かせないものとなっています。外出先でスマートフォンやタブレットなどのデバイスを長時間使用すると電源が切れてしまい使えなくなってしまう…といった経験はありませんか。そんな時にモバイルバッテリーがあれば、外出中でもスマートフォンなどデバイスを充電することができます。慌てて充電できる場所を探すなんてことがないように、準備しておきたいものです。そこで今回は、容量やサイズなど色々な種類があるなかで自分に合ったモバイルバッテリーの選び方のポイントをご紹介します。

まずはモバイルバッテリーの容量を確認しよう！

モバイルバッテリーには様々な容量があります。容量は「mAh(ミリアンペアアワー)」という単位で表されていて、この数値が大きいほど大容量のバッテリーになります。容量が大きい製品であれば、毎回充電しなくても使えたり、複数のスマートフォン、タブレットを充電することも可能です。また、モバイルバッテリーからデバイスに充電する際は電圧変換などでロスが生じるため、製品に記載されている数値よりも少なくなります。実際に使用できる容量は60～70%ほどになります。

モバイルバッテリーの容量を選ぶ際は、「充電したいスマートフォンやタブレットなどのデバイスの容量は何mAhなのか」、そのバッテリーでは「1回の充電で何回の給電ができるのか」を確認しておくといでしょう。



モバイルバッテリーの充電速度もチェックしよう！

モバイルバッテリーのスペック表で【入力】と【出力】の数値を確認しましょう。【入力】は「モバイルバッテリー本体を充電する速度」で、【出力】は「スマートフォンなどデバイスを充電する速度」を示しています。どちらも電圧「V(ボルト)」と電流「A(アンペア)」の2つの数値で表されています。電圧×電流で求められる電力「W(ワット)」で充電性能を把握しますので、この電力「W(ワット)」の数値が大きいほどスピーディに充電することができます。モバイルバッテリーはほとんどが約3.7Vの電圧なので「A(アンペア)」の数字が大きいほどスピーディな充電が可能と言えるでしょう。

また、モバイルバッテリーに搭載されている出力端子の数や種類も大事なポイントです。出力端子には「Type-A」や「Type-C」、「MicroUSB」がありますが、どんなデバイスを充電するかによって、出力端子の種類も違ってきます。

出力端子の数に応じて、複数台のデバイスを同時に充電することも可能です。同時に複数のデバイスを充電したい場合は、出力端子の数(同時に充電できる数)の確認が必要です。



ココも大事なチェックポイント！

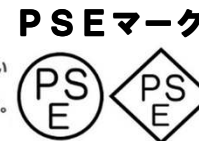
モバイルバッテリーの容量と大きさの バランスも考えよう！

モバイルバッテリーは、基本的にバッテリー容量に比例して、本体のサイズも大きくなる傾向があります。たくさん充電ができるからと容量だけを重視すると、バッテリーのサイズが大きくなってしまい、持ち運ぶ時に不便さを感じてしまうかもしれません。頻繁に持ち歩くのならば、サイズが小さく、薄いタイプでしたら負担にならないでしょうから、バッテリーの容量と携帯しやすい大きさとのバランスを考えて選ぶといでしょう。

「PSE」マークはついていますか？

現在国内で正規に販売されているモバイルバッテリーは、すべて「PSE対応品」で、製品にはPSEマークが付いています。PSEマークには、ひし形と丸型の2種類がありますが、モバイルバッテリーには丸型のPSEマークが付いているはずですので、購入時には確認してください。特にフリマやネットオークションで入手する場合は、要チェック！です。

PSEマークは公的な「お墨付き」ではありませんが、一定の品質基準をクリアしないと表示できないため、品質や安全性の目安になります。



- 電気用品には、法律で安全のための技術基準が定められているものがあります。
- PSEマークは、技術基準を守っていることを示すマークです。
- このマークの表示がない製品は、国内では販売できません。

開発室から



小学生の頃からウン十年ぶりにひまわりの種をまきました。雑草だらけの庭を耕して大輪のひまわりとミニひまわりの2種類の種をまきました。

大輪のひまわりは20cmほどの丈に成長して、ミニひまわりは10cmほどの丈になっています。今まで関心の無かった庭を毎朝見て、ひまわりの周りの雑草を取っています。

